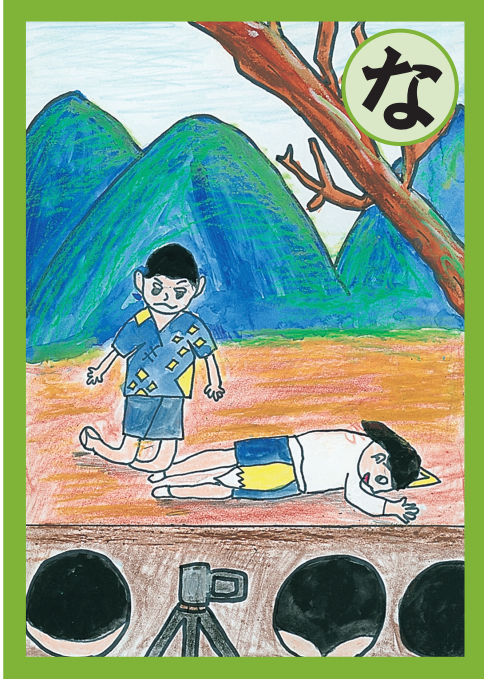
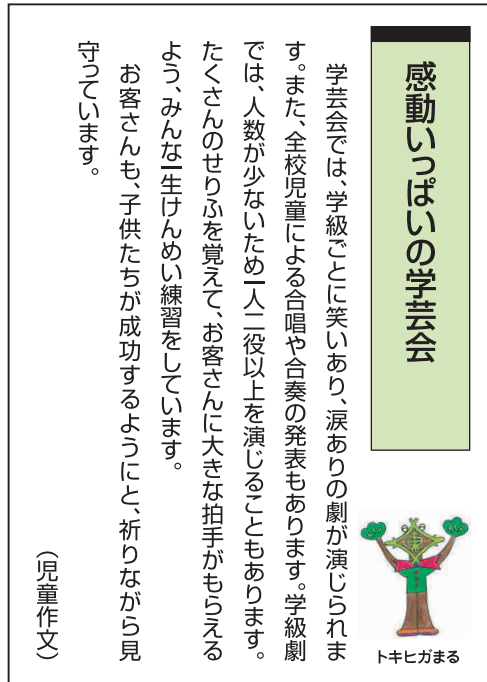
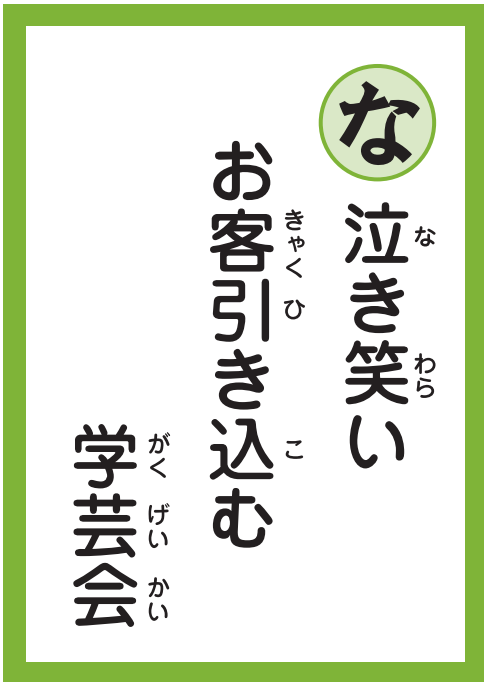


な

絵札



読み札



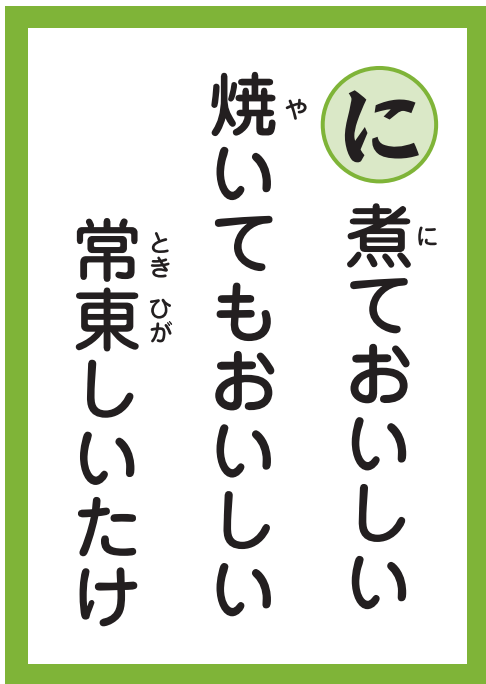
に

絵札



安戸町でのシイタケ菌床栽培

読み札



シイタケは、原木栽培から菌床(きんしょう)栽培へ

昭和三十年頃から始まった原木による自然栽培は、ビニルハウスでの菌床栽培に替わり、良質で安定したシイタケが採れます。木くずに肥料を入れた後、滅菌処理をしてシイタケの菌を入れて菌床をつくります。

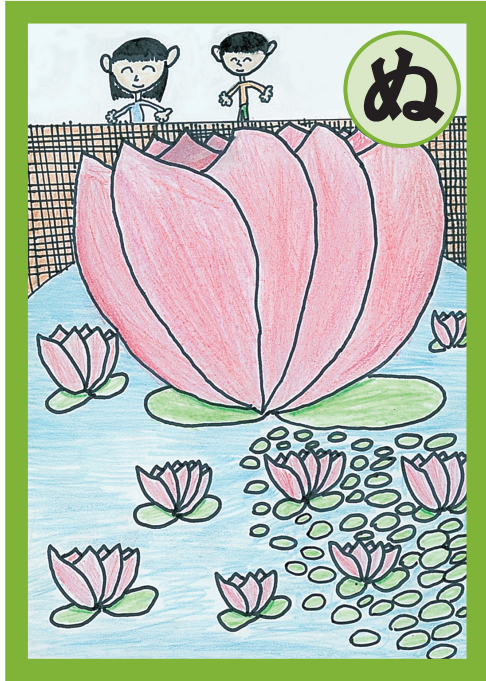
安戸町で四十年ほど作られている方は、「学区には現在三軒の方が栽培しています。夏・冬の二回菌床をしますが、夏は冷たい清水に一日中浸して寒さを体験させなければ立派なシイタケはできません。」と教えていただきました。

トキヒガまる

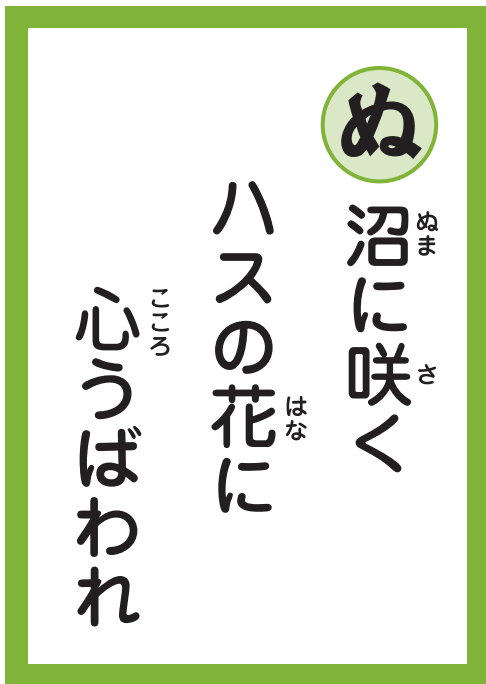


ぬ

絵札



読み札



ハスの花 泥より出でて 泥に染まらず

学校の東門から出ると、めだか池横の竹柵に囲まれたハス池があります。平成二十八年に作られたこの池には、毎年六月末から薄桃色の幻想的な花を咲かせます。

「ハスは泥より出でて泥に染まらず」とも言われ、泥水を吸っても美しい花を咲かせます。奈良や鎌倉の大仏はハスの花の台座に座っており、神聖な花と言われています。ハスの花は午前中が見頃です。日の出とともに咲きほころび、二十センチほどの大輪となり、昼下がりから徐々に花びらを閉じていきます。

トキヒガまる



ね

絵札



読み札



地域の安全を呼びかける
子供が作った防災看板

トキヒガまる

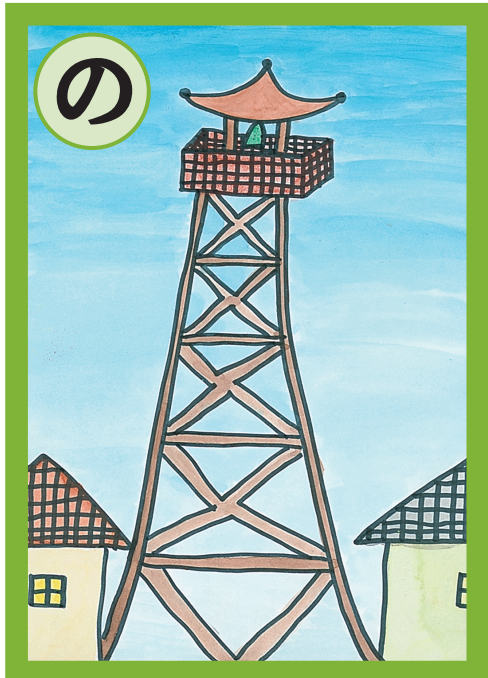
常盤東学区には、土砂災害特別警戒区域が17か所(令和元年七月現在)あります。以前から危険な場所もあり、総合的な学習の時間で、六年生の子供たちが中心となって自作の防災看板を設置しました。

手作りの木製看板(平成25年度)を十か所、耐久性に優れたオリジナル看板(平成27・29年度)を各五か所設置しました。木製看板については老朽化により、アルミ製看板に替えた場所が多くあります。現在も地域の方々に安全を呼びかけています。

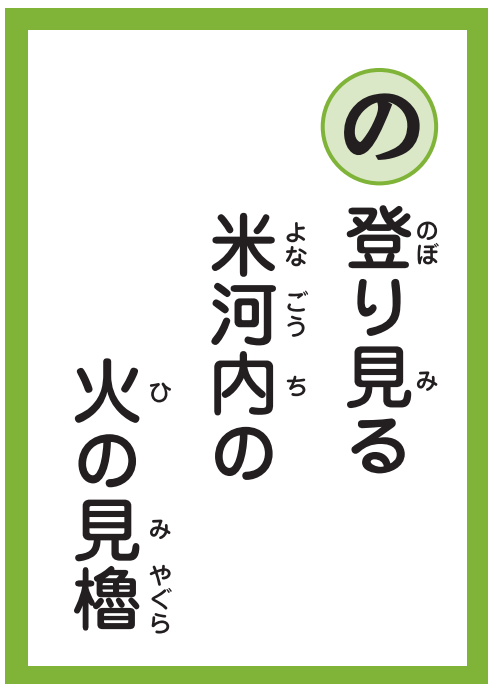


の

絵札




読み札



地域の安全を見守り続けてきた 火の見櫓

大沼街道沿いを歩いていくと米河内町に高い鉄塔がそびえ立っています。これは火の見櫓と呼ばれ、火災の早期発見、消防団の招集、町内への警鐘の発信などに使われていた見張り台です。江戸時代以降、消火体制とともに整備され、昭和初期には全国ほぼすべての地域に設置されました。

昔は、上部に半鐘が設けられていましたが、現在では、半鐘に代わりサイレンを取り付け、今でも地域の人々に火災の発生を知らせる大切な役割を担っています。

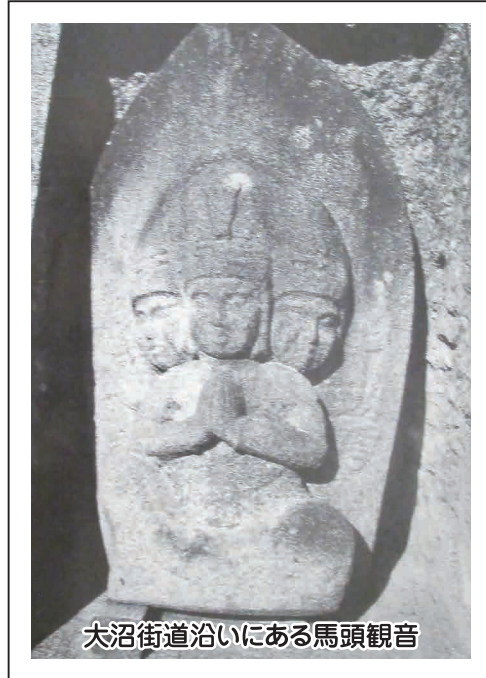


トキヒガまる



は

絵札



大沼街道沿いにある馬頭観音

読み札



**馬頭観音は、無病息災、厄除
家畜救済、旅の安全の観音様**

頭の上に馬を乗せている仏様を馬頭観音と言います。馬頭観音は、人だけでなく馬や牛などの安全と健康を祈る観音様です。昔は、田畑を耕したり人や荷物を運んだりするのは、牛や馬でした。そこで、人や牛や馬の健康や安全を祈り、道の脇に置かれるようになりました。

常磐東学区には十七か所(米河内六、大柳五、新居四、安戸一、蔵次)あります。最も有名な観音は、大柳町の「三面八臂馬頭観音」です。

トキヒガまる

(「常磐の石像仏」より)

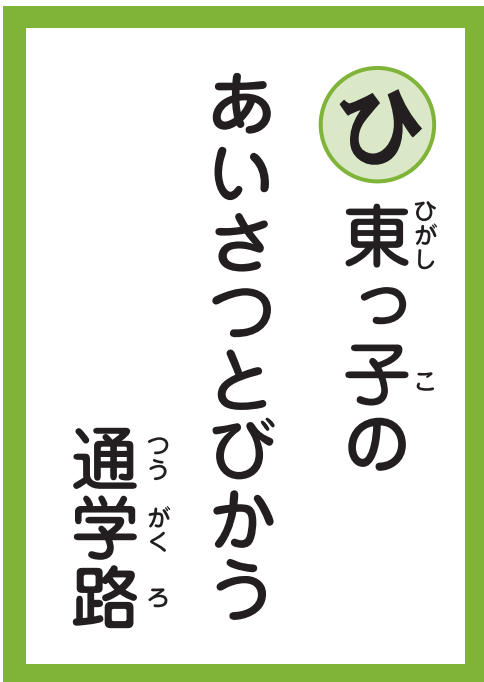


ひ

絵札



読み札



笑顔あふれる元気な あいさつ

常盤東小学校の子供たちは、毎朝、先生や友達に校内で元気なあいさつをしています。通学路でも、出会った地域の方たちに力いっぱい大きな声であいさつをします。あいさつを返してくださると、とてもうれしい気持ちになり、言われた方も笑顔があふれます。

これからも、言われてうれしく、言いつけすっきりするよう明るく元気なあいさつをしていきます。

(児童作文)

トキヒガまる



ふ

絵札



読み札

ふ
ふる
古い金
かね

桜の名所
さくらのかみどころ

かいげん
開元の里
さと

自然豊かで美しい町
開元の里

開元の里は、平成四年に米河内町に完成した新しい町です。開元の里という名前の由来は「開元通宝」を含む大量の古銭が出土したことからきています。開元の里では、開元通宝出土を記念して、昭和五十六年二月二十日に作られた記念碑を見ることが出来ます。また、自然環境にも恵まれており、春には美しく咲く桜を見ることができ、自然石を利用した荒井川の景観もとても素晴らしいものです。

トキヒガまる

(百周年記念誌「緑陰」より)







絵札



読み札


 へいけむしや
平家武者
 くもの糸に
 たす
助けられ

「くもの糸」に助けられた
平家の落ち武者


トキヒガまる

蔵次の山中に逃げ込んだ平家の落ち武者がいました。これを探し求める源氏の隊が目ぼしをつけて蔵次の入口までやってきました。ところが、その「隊が見たものは、道の両側に立つ木の枝から枝へと、はりめぐらされた「くもの糸」でありました。「道にくもが糸をはっているようでは、人間が通ったはずはない。」という口ぐせ、もぐっていきました。あやうい所を助けられた落ち武者は、「ここに住み着いたところだ。」

〔常磐東のむかし〕(下り)



ほ

絵札




読み札



**初夏にかけて聞かれる
ウグイスの鳴き声**

常磐東小学校では、春から夏にかけて、ウグイスの「ホーホケキョ」という鳴き声がよく聞かれます。「ホー」は吸う息、「ホケキョ」は吐く息で、胸をいっぱいふくらませてさえずります。

早春、人里で上手に「ホーホケキョ」と鳴く練習をしていたウグイスは、春から初夏にかけ山へ帰って、巣づくりをするということです。だから、山に囲まれた常磐東小学校では、初夏にかけても、鳴き声が聞こえるんですね。



トキヒガまる

